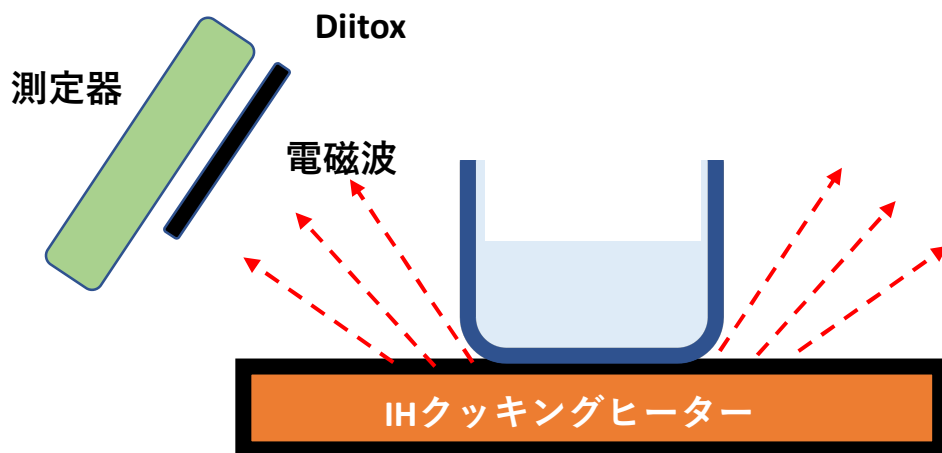


① IHクッキングヒーターを用いたDiitoxの電磁波吸収試験：

1) スキーム：



2) 結果：

カードなしの場合は1.7前後の数値にふらつき、カードを入れた場合は0.02前後に減少した。



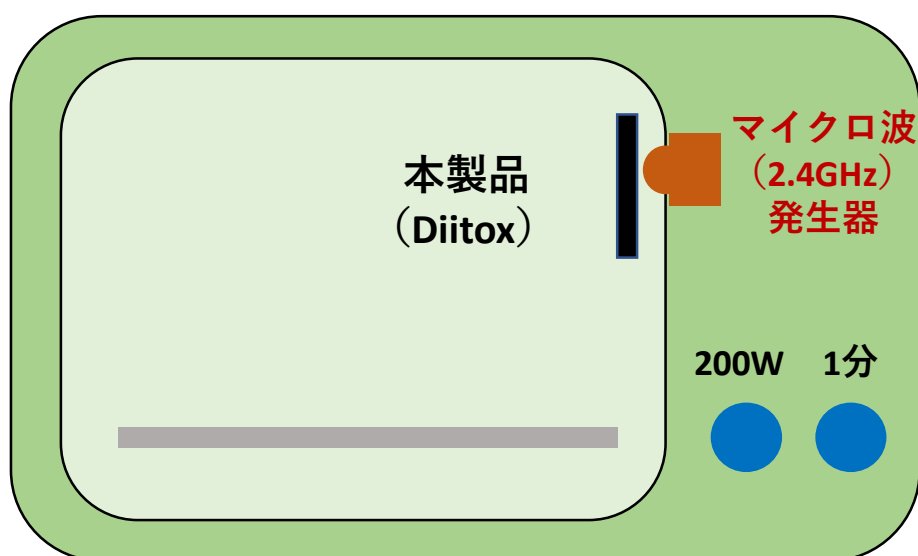
② 電子レンジを用いたDiitoxの電磁波吸収試験：

1) 原理：

本製品DiitoxがSub6帯域近辺の電磁波を吸収する場合は、電子レンジに搭載された2.4GHzのマイクロ波を照射させると、そのマイクロ波を吸収し、製品自身の熱エネルギーに変化し、製品自身が溶けたり燃えたりする。一方、製品に当該マイクロ波を吸収する能力がなければ、製品自身が何も熱的变化がない。製品の電磁波吸収特性がマイクロ波照射を受け製品の熱的变化の度合いに比例する現象を利用し、製品の電磁波吸収特性を確認する。

2) 試験スキーム：

電子レンジ内部（右上）に設置されたマイクロ波（2.4GHz）発生器の上に、本製品Diitoxをかぶせておき、電子レンジの扉を閉め、200Wレンジ、温め1分に合わせて、スタートスイッチを押す。



3) 試験結果：

Diitoxにマイクロ波を照射させたところ、電子レンジ内部が煙で満たされた。取り出したDiitox製品の写真を下図の下部を示す；マイクロ波発生源と同じ大きさの穴が開いた；電磁波を吸収した場所が発熱し、燃えた。

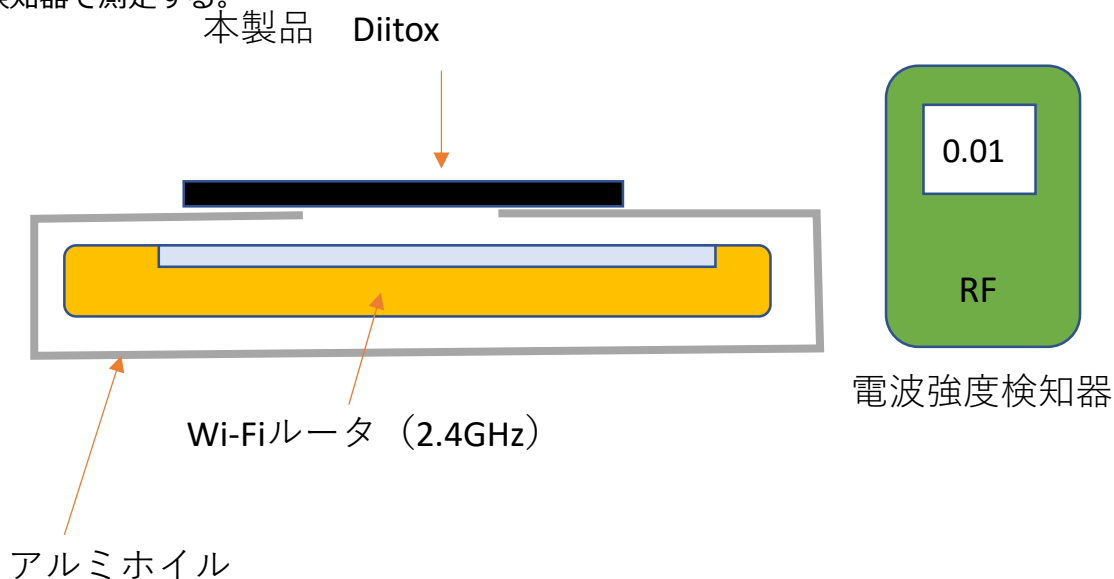
一方、Diitoxに複合した電磁波吸収材を添加していない普通の樹脂カード（透明）を同じ場所に設置し、同様にマイクロ波を照射させた後でも、下図の上部のように、変化が見られなかった；電磁波を吸収しなかった。



③ Wi-Fiルーターを用いたDiitoxの電磁波吸収試験：

1) 試験スキーム：

市販の携帯型Wi-Fiルーター（2.4GHz）をアルミホイルで包み、アルミホイルの一部だけに穴を開け、電磁波を外に出させるようにしておく。その穴部に、本製品Diitoxを被せ、外に漏れたWi-Fi電波の強さを市販の電波強度検知器で測定する。



2) 試験結果：

Diitoxを被せていない場合は、電波強度が2 - 5 前後の数値が出たが、Diitoxを被せた場合は0.01前後の数値に減少した。

